

表12 家に食品が置いてある状況と摂取頻度

		全体	家に置いてある食品			p値
			いつもあ る	ないこ もある	わから ない	
【肉(加工品除く)】		n=1225	n=492	n=626	n=97	
魚肉(加工品除く)の 摂取頻度	必ず食べる	367 30.2%	228 46.3%	122 19.5%	17 17.5%	<0.001
	1週間に4,5日食べる	448 36.9%	177 36.0%	241 38.5%	30 30.9%	
	1週間に2,3日食べる	336 27.7%	74 15.0%	224 35.8%	38 39.2%	
	ほとんど食べない	64 5.3%	13 2.6%	39 6.2%	12 12.4%	
【魚(加工品除く)】		n=1225	n=324	n=757	n=135	
魚肉(加工品除く)の 摂取頻度	必ず食べる	367 30.2%	162 50.0%	186 24.6%	19 14.1%	<0.001
	1週間に4,5日食べる	449 36.9%	103 31.8%	291 38.4%	55 40.7%	
	1週間に2,3日食べる	336 27.6%	51 15.7%	236 31.2%	49 36.3%	
	ほとんど食べない	64 5.3%	8 2.5%	44 5.8%	12 8.9%	
【卵】		n=1225	n=699	n=453	n=61	
卵の摂取頻度	必ず食べる	108 8.9%	95 13.6%	13 2.9%	0 0.0%	<0.001
	1週間に4,5日食べる	398 32.8%	254 36.3%	135 29.8%	9 14.8%	
	1週間に2,3日食べる	523 43.1%	280 40.1%	223 49.2%	20 32.8%	
	ほとんど食べない	184 15.2%	70 10.0%	82 18.1%	32 52.5%	
【野菜】		n=1225	n=1022	n=170	n=23	
野菜の摂取頻度	必ず食べる	731 60.2%	701 68.6%	24 14.1%	6 26.1%	<0.001
	1週間に4,5日食べる	319 26.3%	227 22.2%	86 50.6%	6 26.1%	
	1週間に2,3日食べる	138 11.4%	79 7.7%	53 31.2%	6 26.1%	
	ほとんど食べない	27 2.2%	15 1.5%	7 4.1%	5 21.7%	
【果物】		n=1225	n=395	n=724	n=96	
果物の摂取頻度	必ず食べる	183 15.1%	147 37.2%	35 4.8%	1 1.0%	<0.001
	1週間に4,5日食べる	372 30.6%	155 39.2%	209 28.9%	8 8.3%	
	1週間に2,3日食べる	433 35.6%	82 20.8%	317 43.8%	34 35.4%	
	ほとんど食べない	227 18.7%	11 2.8%	163 22.5%	53 55.2%	
数値：上段は人数、下段は割合(%)、欠損値は除き集計 性別による集計・解析は、不明の3名を除く Kruskal-Wallis検定						

II. 分担研究報告書

7. 世帯の社会経済状態と子どもの食生活・栄養状態との関連：児童の体格

研究代表者 村山伸子 新潟県立大学 教授

研究要旨

本研究は、世帯の社会経済的状态と子どもの栄養状態（以下、体格）との関連について明らかにすることを目的としている。平成 25 年秋に調査を実施し、世帯の社会経済状態の指標について検討をおこなっているところである。そのため、本報告では、体格の全体的な平均値や分布の確認をおこない、全国値との比較から本対象者の位置づけについて報告する。

調査は小学校 5 年生とその保護者とした。全国 4 県の 6 市町村にある 19 小学校に在籍する 5 年生全数 1498 人のうち、長期欠席等の児童等を除く 1447 人の児童と保護者に調査協力を依頼した。同意が得られた 1217 人（84.1%）について解析をおこなった。

本対象者は、本対象者の平均身長（標準偏差）は、男子 141.8（6.9）cm、女子 143.4（6.9）cm であり、女子が有意に高かった。また、全国の平均値よりも男女とも約 3 cm 高かった。体重は、男子 35.9（7.6）kg、女子 36.0（7.7 kg であり、有意差はみられなかった。また全国の平均値よりも男女とも約 2 kg 多かった。男女別の身長、体重、肥満度の分布では、身長がほぼ正規分布であるのに対し、体重と肥満度は最頻値が平均値よりも低く、右裾が長い分布を示した。男女とも月齢と身長に有意な正の相関がみられた。月齢と体重には関連はみられなかった。

本対象者は、平均身長、平均体重は全国値よりも高い傾向であった。しかし、身長と体重のバランスからみた、やせ傾向、肥満傾向の児の割合は、全国値と大きな違いは無いと考えられる。体格の分布形についても全国と同様と考えられる。また、一部の体格指標で男女差、月齢との関連がみられたことは、この時期の成長に男女差があり、また速度が急であることを反映したものと考えられ、体格を栄養状態の指標として用いる場合は男女差、月齢を考慮する必要がある。

A. 目的

本研究は、世帯の社会経済的状态と子どもの栄養状態（以下、体格）との関連について明らかにすることを目的としている。

平成 25 年秋に調査を実施し、世帯の社会経済状態の指標について検討をおこなっているところである。そのため、本報告では、体格の全体的な平均値や分布の確認をおこ

ない、全国値との比較から本対象者の位置づけについて報告する。

B. 方法

1) 対象地域と対象者

調査は小学校5年生とその保護者とした。全国4県の6市町村にある19小学校に在籍する5年生全数1498人のうち、長期欠席等の児童等を除く1447人の児童と保護者に調査協力を依頼した。同意が得られた1217人(84.1%)について解析をおこなった。

2) 調査項目と方法

身長、体重は、2013年9月～12月の学校での健診結果を把握した。月齢は、報告書作成時点で把握できた2県について健診時点での月齢とした。

肥満度は、学校保健統計調査方式(性別・年齢別・身長別標準体重)により算出した。
肥満度 = (実測体重(kg) - 身長別標準体重(kg)) ÷ 身長別標準体重(kg) × 100 (%)

身長別標準体重(kg) = a × 実測身長(cm) - b

aとbの係数は、「児童生徒の健康診断マニュアル(改訂版)」¹⁾に基づき、10歳の係数を用いた。

男子		女子	
a	b	a	b
0.752	70.461	0.730	68.091

体格の評価は、肥満度-20%以下を「やせ傾向」、+20%以上を「肥満傾向」、その間を「ふつう」とした。

全国値は、平成25年度学校保健統計調査(速報値)²⁾の10歳のデータを用いた。

結果

1) 平均身長・平均体重(表1)

表1に対象者と全国の平均身長、体重を示す。本対象者の平均身長(標準偏差)は、男子141.8(6.9)cm、女子143.4(6.9)cmであり、女子が有意に高かった。また、全国平均値よりも男女とも約3cm高かった。

体重は、男子35.9(7.6)kg、女子36.0(7.7)kgであり、有意差はみられなかった。また全国平均値よりも男女とも約2kg多かった。

2) やせ傾向と肥満傾向の児童の割合(表2)

表2に、対象者と全国の肥満度区分別割合を示す。+20%以上の肥満傾向児は、男子9.3%、女子7.5%で、全国と比べて男子1.6ポイント、女子0.5ポイント少なかった。

本対象者の男女差は、男子が女子よりも肥満傾向者が多く、やせ傾向者が少なかった。

3) 身長・体重・肥満度の分布(図1)

図1に、男女別の身長、体重、肥満度の分布を示す。身長がほぼ正規分布であるのに対し、体重と肥満度は最頻値が平均値よりも低く、右裾が長い分布を示した。

4) 年齢(月齢)と体格との関連(図2)

図2に年齢を月齢にして、体格との関連を示した。男女とも月齢と身長に有意な正の相関がみられた。月齢と体重には関連はみられなかった。月齢と肥満度は、男子では関連はなく、女子で負の弱い相関がみられた。

C. 考察

1) 全国値との比較での対象者の位置づけについて

平均身長、平均体重は全国値よりも高い傾向であった。しかし、身長と体重のバランスからみた、やせ傾向、肥満傾向の児の割合は、全国値と大きな違いは無いと考えられる。体格の分布については、平成 24 年度学校保健統計調査（確定値）³⁾の 10 歳児でも、身長では正規分布に近く、体重では右裾に長い傾向であったことから、全国と同様と考えられる。

2) 男女差について

身長では、女子が男子よりも高く、体重は差がみられなかった。この年齢では全国の平均値でも女子が高く、女子の成長（身長の伸び）が早いためであると考えられる。また、肥満度区分でも男女差がみられ、女子の方がやせ傾向にシフトしていた。これは、女子で身長が急激に伸びる時期であることや、この時期から「やせ志向」があることも考えられる。これらより、体格の変数を用いる際には、男女差を考慮する必要があると考えられる。

3) 月齢と体格との関連について

体格の内、特に身長について月齢との関連がみられたことから、身長を扱う場合は、月齢を考慮する必要があると考えられる。

E. 結論

本対象者は、全国の中でやや身長、体重が多く、栄養状態が良い集団である。この時期の成長には男女差がみられることから、体格を栄養状態の指標として用いる場合は男女差を考慮する必要がある。体格の評価

には男女差を身長を評価する際には、月齢を考慮する必要がある。

F. 参考文献

- 1) 財団法人学校保健会。児童生徒の健康診断マニュアル（改訂版）平成 18 年。2006.
- 2) 文部科学省。平成 25 年度学校保健統計調査（速報値）。2013.
- 3) 文部科学省。平成 24 年度学校保健統計調査（確定値）。2013.

G. 健康危険情報

なし

H. 研究発表

1. 発表論文
なし
2. 学会発表
なし

I. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用案登録
なし
3. その他
なし

表1 対象者と全国の平均身長・体重

	男子		女子		本対象者の 男女間差 1) P 値
	本対象者 N=590 平均値 (標準偏差)	全国 平均値	本対象者 N=627 平均値 (標準偏差)	全国 平均値	
身長 (cm)	141.8 (6.9)	139.0	143.4 (6.9)	140.1	<0.001
体重 (kg)	35.9 (7.6)	34.3	36.0 (7.7)	34.0	0.859

1) 対応のない t 検定

全国は、平成 25 年度学校保健統計調査 (速報値)

表2 対象者と全国の肥満度区分別割合

肥満度の区分	男子		女子		本対象者の 男女間差 1) P 値
	本対象者 N=590 (100%)	全国	本対象者 N=627 (100%)	全国	
+20%以上 (肥満傾向)	53 (9.3%)	10.90%	47 (7.5%)	7.96%	0.027
-20%~+20%未満 (ふつう)	521 (88.3%)		548 (87.4%)		
-20%以下 (やせ傾向)	14 (2.4%)		32 (5.1%)		

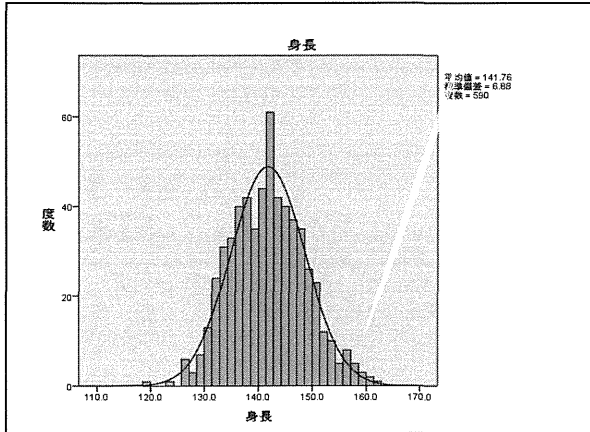
1) カイ二乗検定

全国は、平成 25 年度学校保健統計調査 (速報値)

図1 男女別身長、体重、肥満度の分布

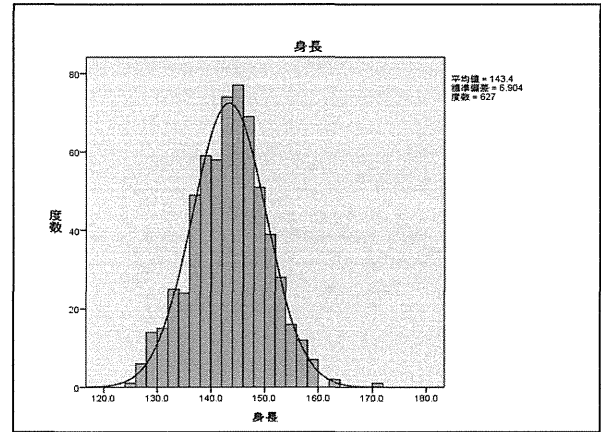
男子 (n=590)

身長

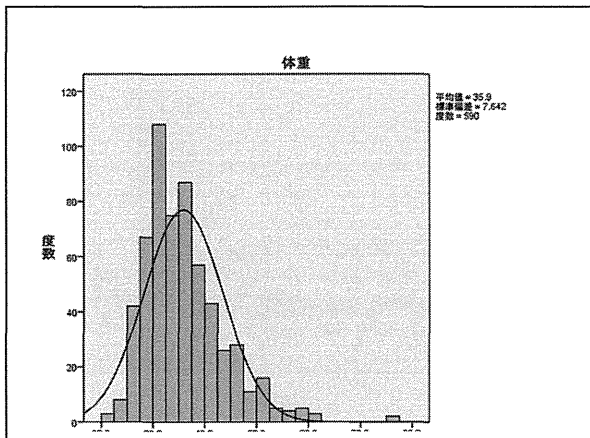


女子 (n=627)

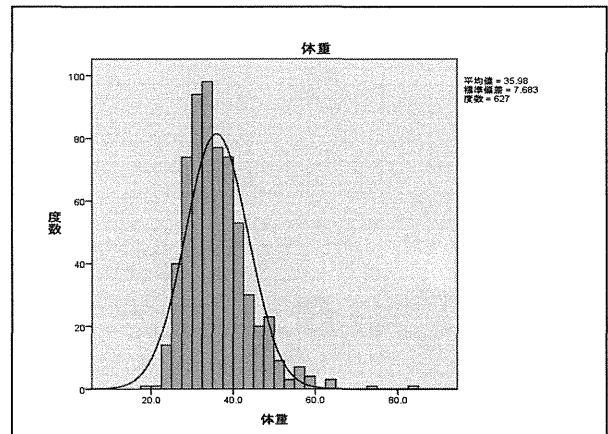
身長



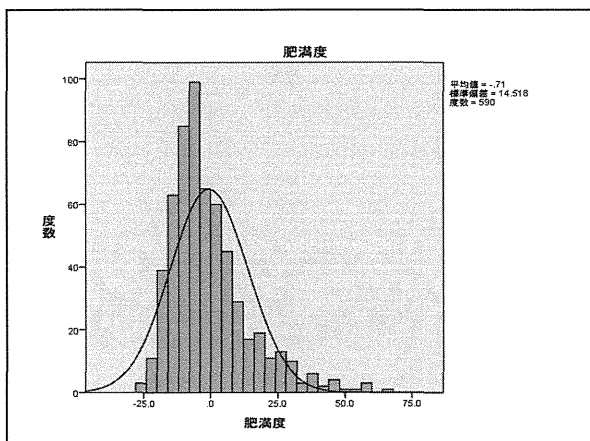
体重



体重



肥満度



肥満度

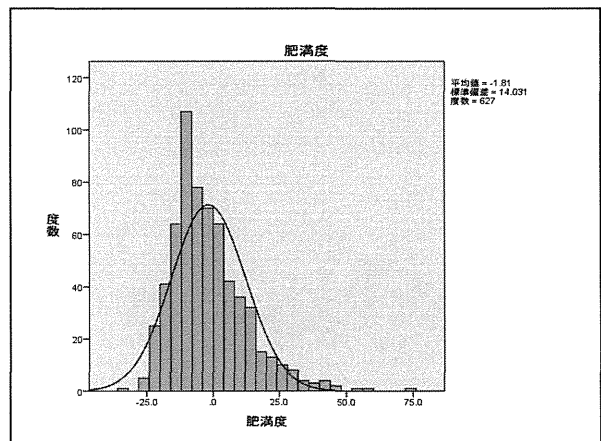
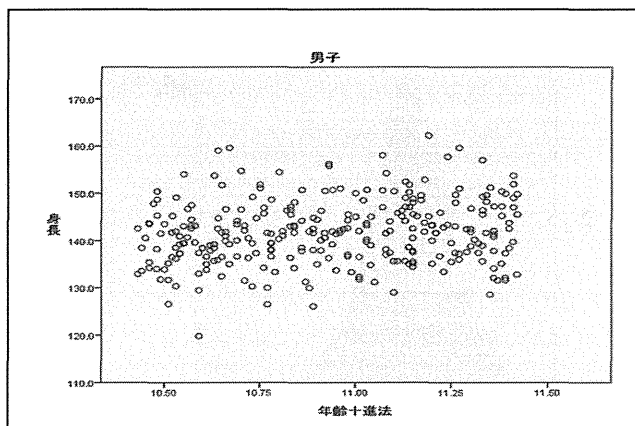


図2 男女別 年齢（月齢）と身長、体重、肥満度との関係

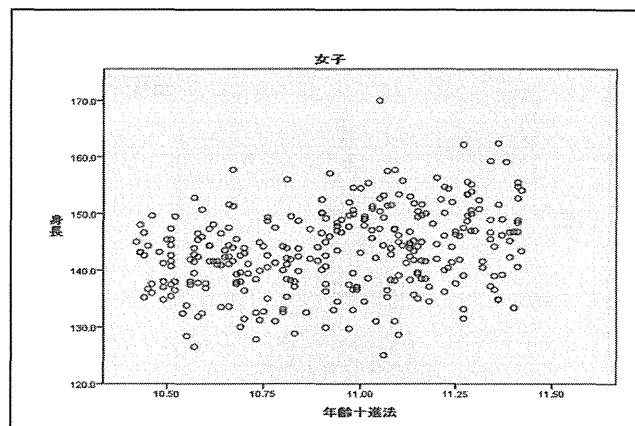
男子 (n=292)

年齢（月齢）と身長 (r=0.164; p=0.005)

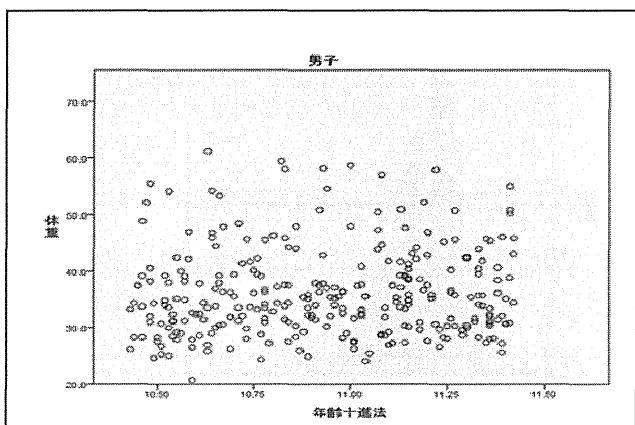


女子 (n=308)

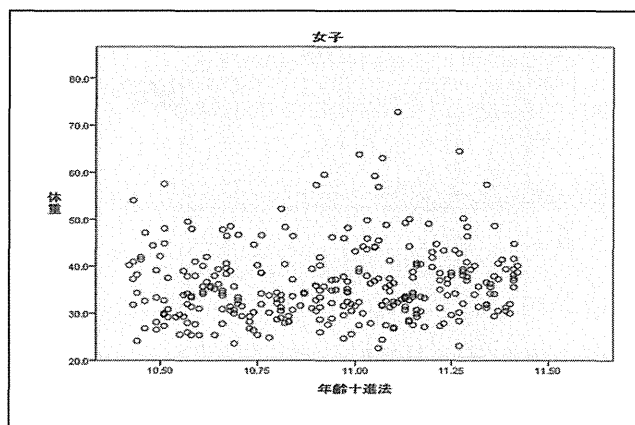
年齢（月齢）と身長 (r=0.301; p<0.001)



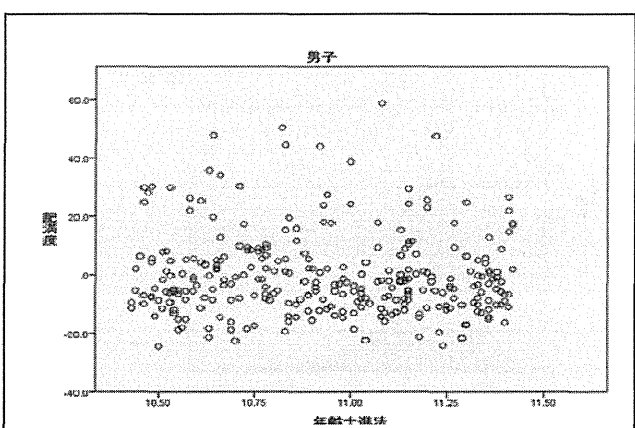
年齢（月齢）と体重 (r=0.062; p=0.292)



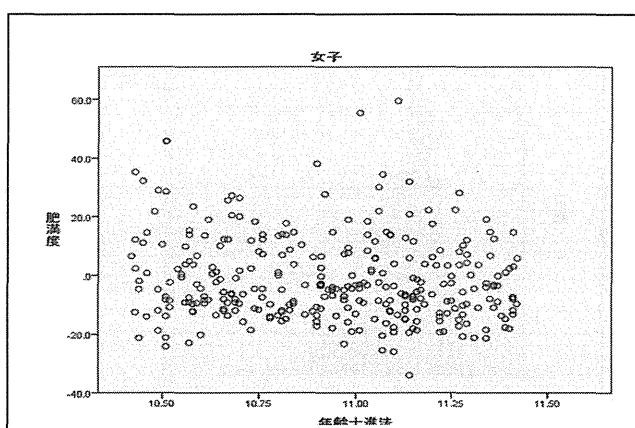
年齢（月齢）と体重 (r=0.107; p=0.061)



年齢（月齢）と肥満度 (r=-0.065; p=0.266)



年齢（月齢）と肥満度 (r=-0.131; p=0.022)



* 報告書作成時点で月齢が把握できた2県のみで解析した

* 月齢は十進法で示す

r : Pearson の相関係数

平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
日本人の食生活の内容を規定する社会経済的要因に関する実証的研究

II. 分担研究報告書

8. 食料品店への近接性と高齢者の食生活・栄養状態との関連：
実態調査の方法（調査標準化のための調査必携および調査票の開発）

研究分担者	石川みどり	国立保健医療科学院	上席主任研究官
	武見ゆかり	女子栄養大学	教授
	福田吉治	山口大学	教授
	草間かおる	青森県立保健大学	准教授
	中谷友樹	立命館大学	教授
	横山徹爾	国立保健医療科学院	生涯健康研究部長
	西 信雄	国立健康・栄養研究所	国際産学連携センター長
研究協力者	野末みほ	国立健康・栄養研究所	研究員
	西尾素子	奈良女子大学	講師
	吉池信男	青森県立保健大学	教授
	三好美紀	国立健康・栄養研究所国際産学連携センター	国際栄養研究室長
	吉葉かおり	女子栄養大学大学院	栄養学専攻

研究要旨

食料品店への近接性と高齢者の食生活・栄養状態との関連を検討することを目的に、青森県、新潟県、埼玉県、山口県の4県6市町における調査を計画し実施した。

前年度（平成24年度）に新潟県で試行的に先行実施した調査プロセスおよび結果、先行研究レビューで得られた知見、対象地域の関係者から得られた情報等を基に研究仮説を作成し、調査票を作成した。また、全市町にて標準的な調査が実施できるよう、調査必携を開発した。

調査は1次調査（質問紙調査：食生活しらべ）と2次調査（食事記録、健康診査結果の転記）からなる。1次調査は、対象市町との調査協力協定を結んだ後に、住民基本台帳から抽出した全独居高齢者に対し、質問紙調査（食行動、生活習慣、食環境を問う）を平成25年9月～10月に郵送法で実施した。その後、1次調査の協力が得られ、かつ、2次調査の協力同意が得られた1467人について自宅から食料品店までの距離を算出し層化無作為に抽出した534人に対し、訪問による食事記録を実施した。

今後、全市町のデータベースを作成し、解析を行う予定である。

A. 目的

日本において健康や食生活にどのような社会的要因が影響するのかについて関心が高まっている。厚生労働省の次期健康づくり計画の告示案においても、こうした社会環境（食環境含む）、また、低栄養や肥満等の栄養状態、健康に及ぼす影響の視点が重視され、実態把握や対策の研究が必要とされており、特に、高齢者ではこうした地域の食環境の影響が大きいことが予想される。

従って、日本における独居の高齢者に焦点をあて、以下の3点を明らかにする。

- 1) 高齢者の栄養状態（低栄養または肥満）と食生活、食環境（居住地域の食料品、飲食店の状況、**宅配**や移動販売車の状況、高齢者への食支援組織の状況等）との関連を明らかにする。
- 2) 食事に問題がある世帯をスクリーニングするための食生活質問票を作成し、調査を行う。その結果、栄養状態との関係が明らかになれば、国民健康・栄養調査等での活用が期待できる。また、自治体では地域包括センター等においてケアマネージャやヘルパーが活用できるものになることが期待できる。
- 3) 高齢者にとって健康的な食事摂取および食環境整備の方法を検討する。

B. 方法

1) 研究仮説の作成

先行研究レビューで得られた知見、対象地域の関係者から得られた情報等を基に研究仮説を作成した（図1）

- 2) 調査の標準化のための調査必携の作成
青森県十和田市、新潟県柏崎市、津南町、

埼玉県鳩山町、坂戸市、山口県美弥町の4県6市町における調査を実施するにあたり、前年度（平成24年度）に新潟県で試行的に先行実施した調査プロセスをふまえ、全市町にて標準的な調査が実施できるよう、調査必携を作成し、また、調査票を完成させた（資料1）。

3) 調査方法と対象の選定

調査は1次調査（質問紙調査：食生活しらべ）と2次調査（食事記録、健康診査結果の転記）からなる。1次調査は、対象市町との調査協力協定を結んだ後に、住民基本台帳から抽出した全独居高齢者に対し、質問紙調査（食行動、生活習慣、食環境を問う）を9月～10月に郵送法で実施した。その後、1次調査の協力が得られ、かつ、2次調査の協力同意が得られた1467人について自宅から食料品店までの距離を算出し層化無作為に抽出した534人に対し、訪問による食事記録を実施した（図2）。

C. 結果

1次調査、2次調査は終了し、今後、全市町のデータベースを作成し、解析を行う予定である。

D. 考察

独居高齢者を対象にした食事記録は日本でも初の試みであると考えるが、調査の標準化には、様々な困難があり、調査必携の作成に大変な労力が必要であった。

E. 結論

4県6市町にて標準的な調査を実施するための調査必携を作成し調査を実施した。

また、先行研究レビューで得た知見や情報を基に研究仮説を作成した。

F. 参考文献

G. 健康危険情報

なし

H. 研究発表

1. 発表論文

石川みどり、横山徹爾、村山伸子. 地理的要因における食物入手可能性と食物摂取状況との関連についての系統的レビュー, 栄養学雑誌, Vol171, No5, pp290-297, 2013.

2. 学会発表

なし

I. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用案登録

なし

3. その他

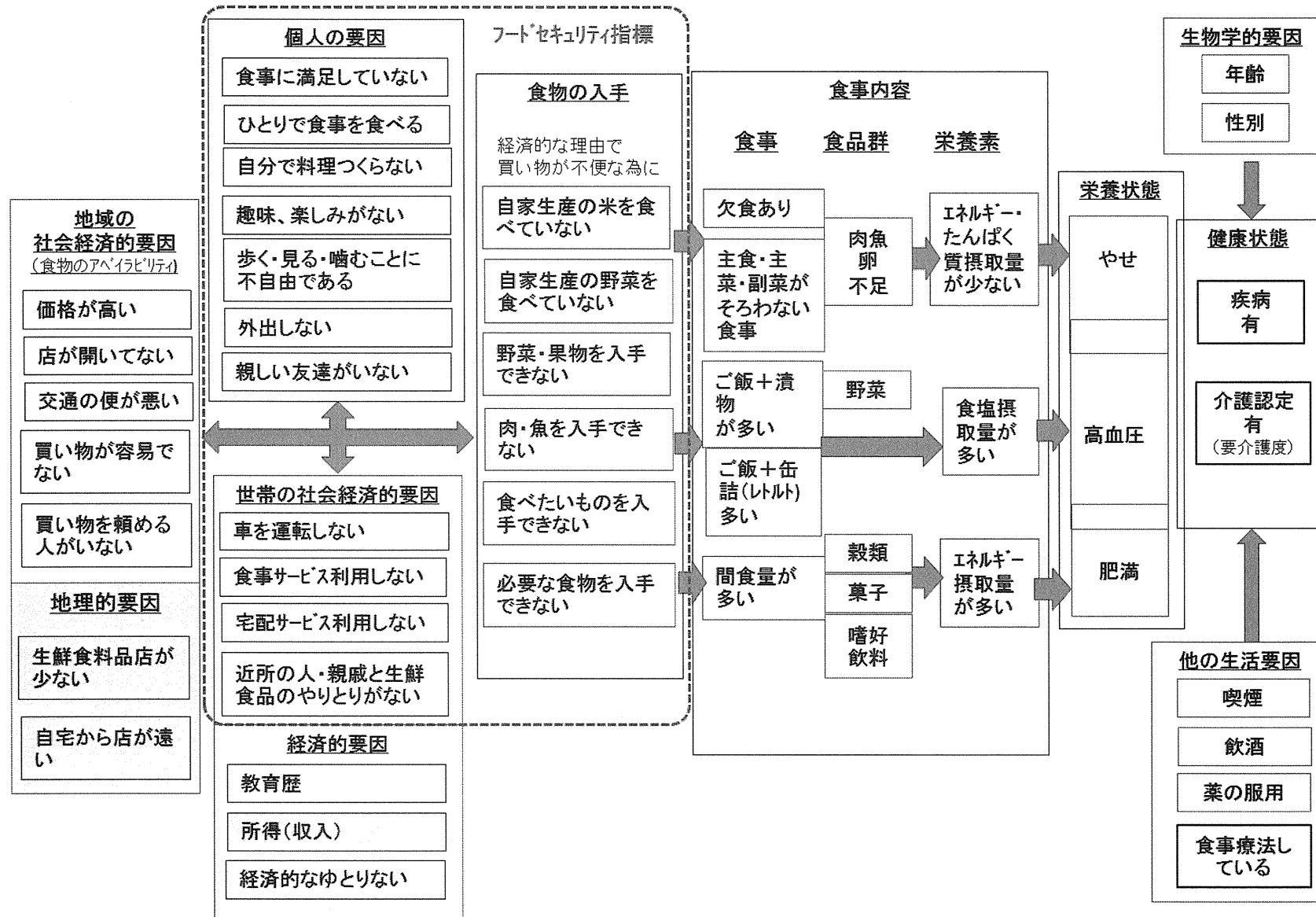


図1 高齢者の社会経済的要因と食生活との関連の仮説

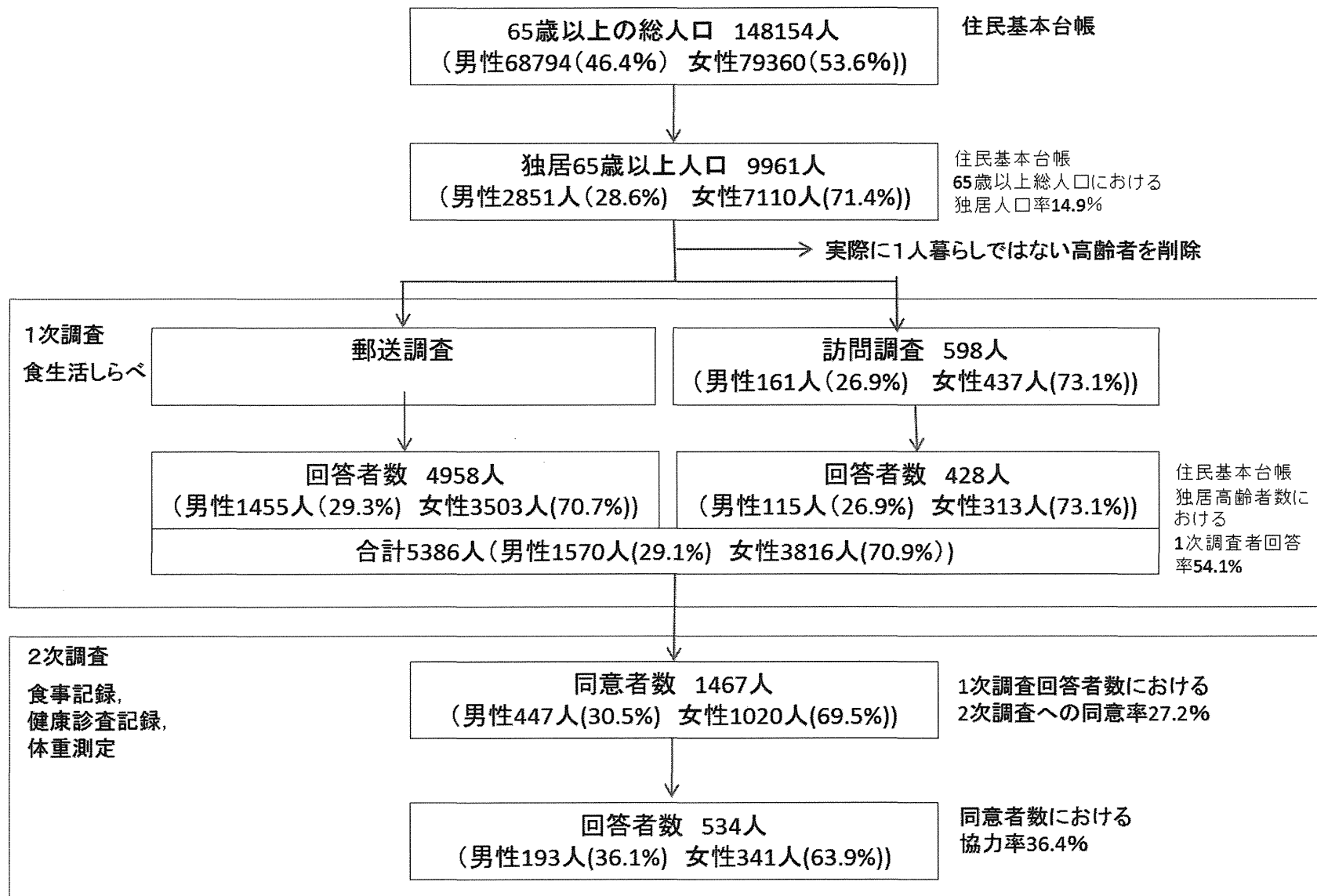


図2 調査対象者

2013年12月現在

平成 25 年度厚生労働科学研究
「日本人の食生活を規定する社会経済的要因に関する実証的研究」
「高齢者の買い物弱者」の食生活実態調査
調査必携

この調査に携わる調査員の方は、この必携をよくお読みください。

1. 調査の概要

1 研究の背景

日本において健康や食生活にどのような社会的要因が影響するのかについて関心が高まっている。厚生労働省の次期健康づくり計画の告示案においても、こうした社会環境（食環境含む）、また、低栄養や肥満等の栄養状態、健康に及ぼす影響の視点が重視され、実態把握や対策の研究が必要とされており、特に、高齢者ではこうした地域の食環境の影響が大きいことが予想される。

そこで、平成 24 年度より厚生労働科学研究費による「日本人の食生活を規定する社会経済的要因に関する実証的研究」が開始され、本調査はその一環として実施するものである。

2 目的

日本における独居の高齢者に焦点をあて、以下の 3 点を明らかにする。

- 1) 高齢者の栄養状態（低栄養または肥満）と食生活、食環境（居住地域の食料品、飲食店の状況、宅配や移動販売車の状況、高齢者への食支援組織の状況等）との関連を明らかにする。
- 2) 食事に問題がある世帯をスクリーニングするための食生活質問票を作成し、調査を行う。その結果、栄養状態との関係が明らかになれば、国民健康・栄養調査等での活用が期待できる。また、自治体では地域包括センター等においてケアマネージャやヘルパーが活用できるものになることが期待できる。
- 3) 高齢者にとって健康的な食事摂取および食環境整備の方法を検討する。

3. 方法

調査項目

- (1) 食生活アンケート（食生活しらべ）
- (2) 食事調査
- (3) 健康診査結果の転記
- (4) 体重測定（身長が分からない場合には、身長も計測する。）

1) 一次調査（食生活アンケートの実施）

(ア) 対象者

〇〇県〇〇市に在住する独居高齢者（65～89 歳） 2013 年〇月〇日時点

(イ) 調査時期

2013 年〇〇月

③ 調査内容与方法

質問票（食生活しらべ A4 6 ページ）を郵送にて依頼及び回収

2) 二次調査（食事調査、健康診査結果の転記、体重測定の実施）

① 対象者の抽出方法

- ・一次調査の質問票の間 39 において、追加調査に「1. 協力する」と回答した者について対象者リストを作成する。
- ・対象者は次の条件を満たす者とする。1. ひとりで生活できる、2. ひとりで買い物等の移動ができる。
- ・GISを用いて、〇〇県〇〇市におけるスーパー、コンビニ等の食料品店の分布と対象者の自宅をマッピングし、食料品店の密度等により、アクセスの良好、中程度、不良な地区を決定する。
- ・アクセス良好、中程度、不良な地区より対象者を抽出する。（50-60 名×〇地区）合計〇〇〇名

② 調査時期

2013 年 9 月～11 月

(ウ) 食事記録

- ・平日の連続しない 2 日間

- ・調査に関する説明会において調査の訓練を受けた管理栄養士・栄養士を調査員として雇用する。調査員 1 人あたり、7 世帯を担当し、調査世帯を訪問し、対象者に調査の主旨を説明し、記録し、回収する。調査票等の回収及び確認については、1. 保健センター等に集合してもらう、2. 戸別訪問、の方法がある。
- ・調査票を回収後、食材料の重量化、コード化、食料毎の摂取量に変換する。
- ・重量データを「エクセル栄養君」に入力し、エネルギー・栄養素摂取量、食品群別摂取量、主食・主菜・副菜、間食の種類、摂取量を算出する。

(エ) 健康診査結果の転記

次のいずれかの方法で、直近（1 年以内）の健康診査結果の項目を転記する。1. 保健センター等に集合してもらう、2. 戸別訪問

(オ) 体重の測定（身長が分からない場合には、身長も計測する。）

体重の計測については、次のいずれかの方法で実施する。1. 戸別訪問の際、調査員が体重計を持参し計測する、2. 保健センター等で計測する。

身長が分からない場合には、身長も計測する。

(カ) 解析

- ・独居高齢者の健康・栄養状態（低栄養または肥満）と食生活、食環境との関係を明らかにする。
- ・上記の食事記録から、食品入手場所以に基づいて高齢者の食物入手マップを作成する。
- ・食料品店の分布密度による高齢者の食事摂取、食行動、食物入手先、体格等への影響を検討する。

(キ) 結果の活用

調査結果を踏まえ問題を抱えた高齢者への食環境整備方法について、保健所、市町村、県、関係団体と検討する。

3) 一次調査と二次調査を同時に実施する場合

(1) 対象者の抽出方法

- ・住民基本台帳から高齢者一人世帯を抽出する（2013 年〇月〇日時点）。（（注）住民基本台帳の使用可否について確認。）
- ・対象者は次の条件を満たす者とする。1. ひとりで生活できる、2. ひとりで買い物等の移動ができる。
- ・GISを用いて、〇〇県〇〇市におけるスーパー、コンビニ等の食料品店の分布と対象者の自宅をマッピングし、食料品店の密度等により、アクセスの良好、中程度、不良な地区を決定する。
- ・アクセス良好、中程度、不良な地区より対象者を抽出する。（50-60 名×〇地区）合計〇〇〇名

(2) 調査時期

2013 年 11 月

食生活アンケートへの回答を依頼する。食事調査、健康診査結果の転記、体重測定の方法等については、前述「2）二次調査」の②-⑦に準ずる。

4. 研究期間：平成 25 年 4 月から平成 27 年 3 月

1) 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月

〇〇県内の地理情報を基に調査対象地域を把握し、調査を開始する。調査結果に基づき問題を抱えた高齢者への食環境整備方法について保健所、市町村、県、関係団体と検討し、施策や事業計画につなげ反映させる可能性を検討し、事業計画に位置づける。

2) 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月

調査結果を反映させた施策や事業計画を実施する。

5. 結果の公表

学会発表、論文、報告書で公表する予定。

6. 研究における論理的配慮

1) 一次調査を実施する場合

調査研究の実施に際し、以下の内容を文書で説明し、調査票の返信を持って、調査への同意が得られたものとする。

1) 研究目的（前述）

2) 研究方法（前述）

3) 研究成果の使われ方は、集計後に学会発表、論文で発表予定。

- 4) 研究によって生ずる個人への不利益とそれに対する配慮
- 5) 個人情報保護とデータの管理方法
- 6) 研究協力の任意性と撤回の自由
 - (1) 本研究への参加は自由、参加しなくても不利益を受けない。
 - (2) 本研究に参加した場合でも、途中でいつでも止めることができる。

2) 二次調査を実施する場合、一次調査と二次調査を同時に実施する場合

調査研究の実施に際し、以下の内容を文書と口頭で説明し同意書にサインをしてもらう。

- 1) 研究目的(前述)
- 2) 研究方法(前述)
- 3) 研究成果の使われ方は、集計後に学会発表、論文で発表予定。
- 4) 研究によって生ずる個人への不利益とそれに対する配慮
- 5) 個人情報保護とデータの管理方法
- 6) 研究協力の任意性と撤回の自由
 - (1) 本研究への参加は自由、参加しなくても不利益を受けない。
 - (2) 本研究に参加した場合でも、途中でいつでも止めることができる。

7. 本調査にかかわる研究者と役割および研究協力者

1) 研究者

- 平成 25 年度厚生労働科学研究「日本人の食生活を規定する社会経済的要因に関する実証的研究」
- 村山伸子 新潟医療福祉大学大学院教授(主任研究者)
 福田吉治 山口大学医学部教授(健康、体格の評価)
 林 辰美 東亜大学医学部教授(山口県調査)
 中谷友樹 立命館大学文学部歴史都市防災研究センター教授(GISを用いた地理情報分析)
 横山徹爾 国立保健医療科学院生涯健康研究部部長(研究デザイン・データの質管理)
 石川みどり 国立保健医療科学院生涯健康研究部主任研究官(研究調整、食事調査の評価、新潟県調査)
 武見ゆかり 女子栄養大学栄養学部教授(埼玉県調査)
 草間かおる 青森県立保健大学健康科学部准教授(青森県調査)
 吉池信男 青森県立保健大学大学院教授(青森県調査)
 西 信雄 国立健康・栄養研究所国際産学連携センター長(経済と健康・栄養状態の評価)
 三好美紀 国立健康・栄養研究所国際産学連携センター室長(食事解析)
 野末みほ 国立健康・栄養研究所国際産学連携センター研究員(食事解析)
 西尾素子 奈良女子大学・生活環境学部特任講師(食事解析)

8 調査に関する秘密の保持

この調査は、被調査者の心身の状態や周囲の環境、生活習慣について具体的な情報を取り扱うとともに、多数の関係者が携わるという特色を有することから、被調査者に係る個人情報の保護、取扱いには十分注意してください。

2. 調査のための物品

対象者の食事内容の重量を確認する際、もしくは重量が記載されていない場合、以下の図書およびスケール等(1～7)を使用して重量を記載してください。

- 1) 調理のためのベーシックデータ [単行本] 松本 伸子 (監修) 女子栄養出版部
- 2) 食品 80 キロカロリーガイドブッカー 大きさ・量がひと目でわかる [単行本] 香川 芳子 (編集) 女子栄養出版部
- 3) 食事のコーディネートのための主食・主菜・副菜料理成分表 [単行本] 針谷 順子 (著) 群羊社
- 4) 日本食品標準成分表 2010
- 5) 食品重量計測用スケール(タニタ製)、ボタン電池(LR44) 3個
- 6) 平成 19 年国民健康・栄養調査 食品番号表(以後、食品番号表)【資料 1】
- 7) エクセル栄養君に登録されている登録料理【資料 2】
- 8) 体重計 HD-382-MB(タニタ製)

3. 調査票のチェックの方針

1 食事記録

1) 食事記録の方法

- (1) 食事記録票は、対象者が記入します。
- (2) 記入例のように書かれているかを確認してください。
「記録日」「今日の体調」「身長」等の項目も記載されているか確認してください。
- (3) 書きもれている場合は、対象者に確認し、調査員が記入をしてください。
- (4) 体重については、調査員が計測し、記入してください
- (5) この調査は、秤量法ではなく目安量法ですが、可能な限り対象者が重量を量り記入します。
- (6) 重量の記載のない場合、対象者が記載した目安量から、調査員が重量に換算します。重量に換算するために必要な情報(大きさや食品の種類など)は、対象者から聞き取ってください。

2) 食事記録の具体的確認事項

食事記録の用紙には、対象者記入欄として8つ、調査員記入欄として2つの欄があります。それら全ての内容について該当箇所に記載をお願いします。

- ① 食事区分⇒ ② 食事時間⇒ ③ 誰と食べたか⇒ ④ 料理名⇒ ⑤ 料理の材料⇒
- ⑥ 食べた量(目安量等)⇒ ⑦ 重量 (⑧ 廃棄部分(量))⇒
- ⑨ 調査員用備考1(g)⇒ ⑩ 調査員用備考2

調査員は、記録用紙下部の調査員記入欄に、サプリメント等記入用紙の有無について記入します。

- (1) 食事区分
朝食・昼食・夕食・間食の区分について記入します。
- (2) 食事時間
食事を始めた時間を記入します。
- (3) 誰と食べたか
1人で食事をとったか、誰かと一緒に食事をしたかを記入します。個人名は記入せず、その方との関係(家族、友人等)を記入します。会合などに出席した場合は、どのような集まり(老人クラブの会合等)かを書きます。外食の場合も誰と食べたかがわかるように記入します。
- (4) 料理名
・具体的に記入します。「出前」「宅配のお弁当」などの情報もこの欄に記入します。
具体的な料理名とは、食材と調理法が予想できるものです。
例) 卵:「卵焼き」「目玉焼き」「スクランブルエッグ」
・惣菜・レトルト・冷凍食品なども記入します。
・料理ごとに一行あげます。
- (5) 料理の材料
・わかめ、しいたけなど、「生」「乾物」「戻し」などの違いがある食品は、具体的に記入します。
・調理後の重量を量った場合は、「ほうれん草(ゆで)」等と調理方法も記入します。
・肉類は、「鶏肉(もも皮つき)」「豚肉(ひき肉)」等と部位や皮の有無も記入します。
・魚の切り身や果物の場合は、「塩サケ(切り身)」「りんご(皮なし)」と具体的に記入します。
・精白米、胚芽米、玄米など、種類を具体的に記入します。
- (6) 食べた量(目安量等)
 - ① 記入の原則
・なるべく食品ごとに重量(g)を計測します。
・調味料(砂糖、塩、醤油等)は計量カップや計量スプーンで計測します。
・重量を量れない場合は、目安量を記入します。
・パッケージに記載された重量に関する情報を参考に、記入します。
・重量や目安量がどうしてもわからないときは、商品名やメーカー名を記入します。
 - ② 揚げ油・香辛料について
・記入する必要のあるもの
揚げ油の種類(サラダ油、ごま油等)、食卓で使用する調味料で、塩分が比較的多く含むと考えられるもの(とんかつソース、刺身のつけ醤油、ドレッシング、マヨネーズ、ケチャップ、食卓塩等)
・対象者が記入する必要のないもの
揚げ油(天ぷら、フライ等)の揚げ油の量、香辛料(こしょう、七味等)、料理に使用する水(だし汁等)

※調査員は揚げ物(天ぷら、フライ等)の揚げ油について、「料理の材料」欄に油の種類を記入し、吸油率を考慮し、重量に換算します。

③ 外食について

- ・店名とメニュー(料理名)を記入します。
- ・目安量(大きさ、個数)や「〇人前」で記入します。

記入例)

料理名	料理の材料	食べた量(目安量等)
ビール		中ジョッキ 1杯
焼き肉 牛肉		1.5 人前
冷やっこ		1/2 丁

④ 惣菜・レトルト・冷凍食品について

- ・惣菜(煮豆、和えもの等)やレトルト食品(カレー、ミートボール等)は、「商品名」を記入します。できる限り食材料、重量を記入します。
- ・食品別に重量を量れないものは、料理ごとの重さ(g)や、目安量(大きさ、個数)や「〇人前」で記入します。
- ・「食品の包装に記載されている重量」を参考に記入します。

記入例)

料理名	料理の材料	食べた量(目安量等)
冷凍シュウマイ	シュウマイ	100g(5 個)
	しょうゆ	大さじ1
肉じゃが		1人前

⑤ 飲料について

- ・浸出させて飲むものは飲んだ液体の量(浸出液量)を記入します(お茶、ドリップ式コーヒー等)。
- ・希釈飲料は、「原液の量と希釈に使用した水の量」を記入します(インスタントコーヒー、ココア、カルピス等)。
- ・ジュースはその「材料と種類」を具体的に記入します(オレンジ果汁20%、りんご果汁100%)。
- ・アルコール飲料は、パッケージを確認して「アルコール度数(%)」を記入します。

⑥ 麺類について

- ・麺類の汁については、食べた量を詳しく記入します。
- 例)「汁も残さず全量食べた」「汁を半分残した」「汁を全て残した」

(7) 重量

- ・重さを量った場合に記入します。また、包装の表示に重量の記載があった場合に記入します。
- ・「重量」の記載のない場合、対象者が記載した目安量から、調査員が重量に換算します(「調査員用備考1(g)」欄に記載します)。

(8) 廃棄部分(量)

- ・「食べた量」の欄に記入した重量の中に、食べない廃棄部分(野菜の皮、果物の芯や皮、貝の殻、魚の頭や骨)がある場合は、それらの重量を量って、廃棄量の欄に記入します。計量ができない場合には、「殻、芯」等と記入します。

(9) 調査員用備考1(g)

調査員が確定した重量を記載します。

(10) 調査員用備考2

聞き取った内容のメモなどに使用します。

(11) その他

- ・次のような食品等を食べた場合は、具体的な商品名と分量(容量)を記入します。
- 栄養素等調整調味料「減塩しょうゆ」「低エネルギー甘味料」
- いわゆる「スポーツ飲料」

-いわゆる「栄養ドリンク」、錠剤・カプセル・顆粒状のビタミン・ミネラル

※いわゆる「栄養ドリンク」、錠剤・カプセル・顆粒状のビタミン・ミネラルを対象者が摂取していた場合には、記録用紙下部の調査員記入欄について、サプリメント等記入用紙は有とし、「サプリメント等記入用紙」に必要事項を記入します。

(12) 食事記録の入力

食事記録の内容のうち、調査年月日(曜日)、性別、今日の体調、身長、体重、食事区分、食事時間、誰と食べたかについてはエクセルシートに入力します。食事内容についてはエクセル栄養君へ入力します。入力は、1人1日1シートの入力とします。全ての入力が完了した後に、栄養価計算を行います(エクセル栄養君 ver.6.0 p26 参照)。(詳細は「4. 食事記録の入力」参照。)

2 身長、体重測定、健康診査結果

1) 身長、体重測定

(可能なかぎり)食事記録日の身長及び体重を測定し、記録します。食事記録日に測定できなかった場合は、健康診査結果の測定値を健康診査結果の転記用紙に転記します。

2) 健康診査結果

健康日及び健診項目について、健康診査結果転記用紙の該当箇所に数値を転記します。

3 食生活しらべ(二次調査のみ実施の場合)

1) 調査票回収時の注意事項

全項目に回答しているかを確認してください。
記入もれがみつかった場合は、再度、聞き取りをし、記入をお願いします。

- 問7、問23、29を除いて、選択肢のうちあてはまる番号1つに○が記入されているか。
- 問14(1)(2) 店の名前が記入されているか。店までの時間が記入されているか。
- 問17 問16で「1, 2, 3, 4, 5」と回答した方が問17に回答しているか。清酒への換算については、下記を参照ください。

清酒1合(180ml)は、次の量にはほぼ相当します。
 ビール・発泡酒中瓶1本(約500ml)、焼酎20度(135ml)、
 焼酎25度(110ml)、焼酎35度(80ml)、
 チューハイ7度(350ml)、ウイスキーダブル1杯(60ml)、
 ワイン2杯(240ml)

- 問32 問31で「1」と回答した方が問32に回答しているか。
- 問37 生年月日と年齢に数字が記入されているか。

2) 食生活しらべの入力

食生活しらべの内容はエクセルシートに入力します。

4. 食事記録の入力

1 食事記録の入力について

- 食事記録用紙の内容のうち、ID、調査年月日、曜日、性別、今日の体調、身長、体重についてはエクセルシートに入力する。食事区分(朝食、昼食等)ごとの有無、時間、誰と食べたかについても入力する。【様式1】
- 食事内容についてはエクセル栄養君を使用し、入力する。

2 食品の番号化及び重量化について

- 食品及び重量は、食事記録用紙の記入内容から判断する。その際、食品番号表の目安量・重量換算表を参考にする。また、成分表に数種類の食品の収載があり、判断に迷う場合は、食品番号表を参照し、①大きな文字で示した食品、②「*」がついている食品の順に食品を選択する。
例) 食事記録に「豆腐」と記載があり、判断に迷う場合

豆腐	04032	木綿豆腐
	04033	絹ごし豆腐
	* 04034	ソフト豆腐〔木綿と絹ごしの中間的な豆腐〕
	04035	充てん豆腐〔すきまがないパック入り豆腐〕
	04038	焼き豆腐 沖縄豆腐《硬豆腐》04036 炒し豆腐 04037〔沖縄のもの〕

⇒「ソフト豆腐」を選択する。

- 2) 主食は加熱後の食品及び重量を入力する。(例、「精白米」ではなく、「めし」を選択する。)
- 3) 肉類、魚介類、野菜類等は生の食品及び重量を入力する。(例、「ほうれんそう ゆで」、「ほうれんそう 冷凍」ではなく、「ほうれんそう 生」を選択する。)
- 4) 乾物については、成分表に記載されている乾燥の食品及び重量を入力する。(こんぶについては「9017 干し真こんぶ」、わかめについては「9044 カットわかめ」を使用する。)
- 5) 食品の重量換算についても食品番号表を参照する。(例. 普通牛乳 200ml→206g、うんしゅうみかん L1 個 (135g) → (廃棄率 20%で) 108g)
- 6) 重量は、食べた量から廃棄量を差し引いた重量とする。
- 7) 小数点第 1 位までの記載とし、少数点第二位を四捨五入する。整数で記載できるものは整数で記載してよい。(例. 0.25g→0.3g、25.0g→25g)
- 8) 成分表に記載されていない菓子については、原則、成分表の菓子類に記載されている食品で置き換える。
- 9) 成分表の調理加工食品類に記載されている食品 (食品番号 18001~18016) は使用しない。
- 10) エクセル栄養君に登録されている登録料理は使用可能であるが、登録料理は成人の 1 人分の重量となっているため、必要に応じて量を調整する。また、登録料理詳細を参照し、必要に応じて食品を加除する。登録料理の内容を変更しないで使用する場合、二次票には登録料理の分類と番号を記入すればよい。(例、「ご飯もの」に記載されている「1 いなり寿司」を使用する場合は、「ご飯もの①」と記載すればよい。)ただし、登録料理の内容を加除して使用する場合には、必要な食品番号及び重量を記載する。
- 11) 大根と人参については、特に記載のない場合、各々皮付きの食品を使用する。大根「6132」、人参「6212」。
- 12) 香辛料 (こしょう、七味等) や摂取量が 1g 未満で食塩を含まない調味料については、記入・入力する必要はない。
- 13) だし汁などの記入・入力の必要はない。(顆粒風味調味料や固形コンソメは記入・入力する。)

3 食事内容の入力について

- 1) 入力は、各調査地区 1 ファイルとし、1 人 1 日 1 シートとする。全ての入力が完了した後に、栄養価計算を行う。
- 2) シート名は ID+調査日 (1 日目~2 日目) とする。

38						
39						
	NIK001_1	NIK001_2	NIK002_1	NIK002_2	NIK003_1	NIK003_2

- 3) エクセル栄養君を開始する際、シートの D 列 2 行目を指定する。(エクセル栄養君 ver.6.0 p17 参照)。

Book1						
	A	B	C	D	E	F
1						
2						
3						

- 4) シートの B 列 2 行目に「食事区分」、C 列 2 行目に「時間」、D 列 2 行目に「料理名」と変数名を入力する。

Book1						
	A	B	C	D	E	
1						
2		食事区分	時間	料理名	[食品コード]	
3					(入力列)	

- 5) 「食事区分」には、「朝食」、「昼食」、「夕食」、「間食」、「夜食」の順に入力する。間食が複数回ある場合には、時間の早い順に「間食 1」、「間食 2」と区別して入力する。
- 6) 「時間」には、「7:00」、「13:00」など、24 時間制で入力する。

- 7) 「料理名」について、付け合せは各々の料理として入力する。(例. 皿にハンバーグ、粉吹き芋、人参のグラッセがある場合、「ハンバーグ」、「粉吹き芋」、「人参のグラッセ」という料理名で入力する。)

Book1						
	A	B	C	D	E	F
1						
2		食事区分	時間	料理名	[食品コード]	[食品名]
3					(入力列)	
4		朝食	7:00	トースト	1026	食パン・市販品
5		朝食	7:00	トースト	14021	ファットスブレッド
6		朝食	7:00	バナナ	7107	バナナ生
7		昼食	13:00	ハンバーグ	11089	牛・ひき肉生
8		昼食	13:00	ハンバーグ	6153	たまねぎ・りんご生
9		昼食	13:00	粉吹き芋	2017	じゃがいも生

ID :

食生活しらべ

この質問についてのひとりひとりの答えは公開されません。ご家族に見せることもありませんので、安心してありのまま答えてください。

以下の設問のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。とくに指示がない場合には、○は1つの番号を選んでつけてください。()には数字や文字を記入してください。

問1 あなたの健康状態はどうか。

- | | |
|-------------|---------|
| 1. とても健康 | 2. まあ健康 |
| 3. あまり健康でない | 4. 悪い |

問2 あなたは食事に満足していますか。

- | | |
|----------|-----------|
| 1. とても満足 | 2. まあまあ満足 |
| 3. 少し不満 | 4. とても不満 |

問3 朝食はおもにどうしていますか。

- | | |
|--------------|------------------------|
| 1. 自分で作って食べる | 2. お店で買ったものを食べる (外食含む) |
| 3. 食べないことが多い | 4. その他 () |

問4 昼食はおもにどうしていますか。

- | | |
|--------------|------------------------|
| 1. 自分で作って食べる | 2. お店で買ったものを食べる (外食含む) |
| 3. 食べないことが多い | 4. その他 () |

問5 夕食はおもにどうしていますか。

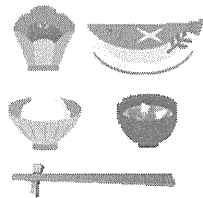
- | | |
|--------------|------------------------|
| 1. 自分で作って食べる | 2. お店で買ったものを食べる (外食含む) |
| 3. 食べないことが多い | 4. その他 () |

問6 友人や親戚など、誰かと一緒に食べることはどのくらいありますか。

- | | | |
|-----------|-------------|-----------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 週に4～5日 | 3. 週に2～3日 |
| 4. 週に1日程度 | 5. 月に1～2日程度 | 6. ほとんどない |

問7 あなたが利用している食事のサービス (食事づくりも含む) で該当するものはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | |
|----------------------|
| 1. デイサービス・デイケア等の食事 |
| 2. 訪問介護員による食事づくり・買い物 |
| 3. 配食サービス |
| 4. 宅配弁当 |
| 5. 食材の宅配 |
| 6. すべて利用していない |



問8 ふだんの食事についてお伺いします。あなたは次にあげる10食品群を週に何日ぐらい食べますか。ここ一週間ぐらいの様子についてお尋ねします。

1) 魚介類 (生鮮、加工品を問わずすべての魚介類です)

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|-------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 2日に1回 | 3. 一週間に1～2回 | 4. ほとんど食べない |
|-----------|----------|-------------|-------------|

2) 肉類 (生鮮、加工品を問わずすべての肉類です)

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|-------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 2日に1回 | 3. 一週間に1～2回 | 4. ほとんど食べない |
|-----------|----------|-------------|-------------|

3) 卵 (鶏卵、うずらなどの卵で、魚の卵は含みません)

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|-------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 2日に1回 | 3. 一週間に1～2回 | 4. ほとんど食べない |
|-----------|----------|-------------|-------------|

4) 牛乳 (コーヒー牛乳、フルーツ牛乳は除きます)

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|-------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 2日に1回 | 3. 一週間に1～2回 | 4. ほとんど食べない |
|-----------|----------|-------------|-------------|

5) 大豆・大豆製品 (豆腐、納豆などの大豆を使った食品です)

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|-------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 2日に1回 | 3. 一週間に1～2回 | 4. ほとんど食べない |
|-----------|----------|-------------|-------------|

6) 緑黄色野菜類 (にんじん、ほうれん草、かぼちゃ、トマトなどの色の濃い野菜です)

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|-------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 2日に1回 | 3. 一週間に1～2回 | 4. ほとんど食べない |
|-----------|----------|-------------|-------------|

7) 海草類 (生、乾物を問いません)

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|-------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 2日に1回 | 3. 一週間に1～2回 | 4. ほとんど食べない |
|-----------|----------|-------------|-------------|

8) いも類

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|-------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 2日に1回 | 3. 一週間に1～2回 | 4. ほとんど食べない |
|-----------|----------|-------------|-------------|

9) 果物類 (生鮮、缶詰を問いません。トマトは含みません。トマトは緑黄色野菜とします)

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|-------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 2日に1回 | 3. 一週間に1～2回 | 4. ほとんど食べない |
|-----------|----------|-------------|-------------|

10) 油脂類 (油炒め、天ぷら、フライ、パンに塗るバターやマーガリンなど油を使う料理です)

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|-------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 2日に1回 | 3. 一週間に1～2回 | 4. ほとんど食べない |
|-----------|----------|-------------|-------------|

問9 ふだんの食料品の買い物 (または食料品の入手) は容易ですか。

- | | |
|----------|-----------|
| 1. とても容易 | 2. まあまあ容易 |
| 3. 少し大変 | 4. とても大変 |

問10 ふだんの食料品の買い物 (または食料品の入手) に、満足していますか。

- | | |
|----------|-----------|
| 1. とても満足 | 2. まあまあ満足 |
| 3. 少し不満 | 4. とても不満 |

問11 あなたは、買い物や食事の準備について、いざとなれば頼める人がいますか。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. たくさんいる | 2. 少しはいる |
| 3. あまりいない | 4. まったくない |

問 23 あなたはこの1年間に、次の1から5の理由で、食物の入手を控えたり、入手ができなかったことがよくありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 価格が高い
2. 買い物をするお店までの距離が遠い
3. お店に行くまでの交通の便が悪い(交通手段がない)
4. 買い物ができる時間にお店が開いていない
5. 入手を控えたり、入手できなかったことはない



問 24 あなたの生活全体について、お尋ねします。

以下のことについて、「はい」または「いいえ」でお答えください。

1) 一日中家の外には出ず、家の中で過ごすことが多いですか。	1. はい	2. いいえ
2) 家の中あるいは外で、趣味、楽しみ、好きでやっていることがありますか。	1. はい	2. いいえ
3) 親しくお話しができる近所の人がいますか。	1. はい	2. いいえ
4) 近所の人以外で、親しく行き来するような友達、別居家族または親戚がいますか。	1. はい	2. いいえ
5) この一年間に転んだことがありますか。	1. はい	2. いいえ
6) 家の中でよくつまずいたり、滑ったりしますか。	1. はい	2. いいえ
7) 転ぶことが怖くて外出を控えることがありますか。	1. はい	2. いいえ
8) この一年間に入院したことがありますか。	1. はい	2. いいえ
9) 最近食欲はありますか。	1. はい	2. いいえ
10) この6か月間に3kg以上の体重減少がありましたか。	1. はい	2. いいえ
11) この6か月間に、以前に比べてからだの筋肉や脂肪がおちてきたと思いますか。	1. はい	2. いいえ

問 25 ふだん、仕事(農作業も含める)、買い物、散歩、通院などで外出する(家の外に出る)頻度はどれくらいですか。

1. 毎日
2. 1週間に1回程度以下

問 26 1km ぐらいの距離を続けて歩くことができますか。

1. 不自由なくできる
2. できるが難儀する・できない

問 27 目は不自由なく見えますか。※眼鏡を使った状態でも結構です。

1. 普通に見える(本が読める)
2. あまり見えない・ほとんど見えない

問 28 現在、どれくらいのものが噛めますか。※入れ歯を使った状態でも結構です。

1. たいていのものは噛んで食べられる
2. あまり噛めないので食べ物が限られる

問 29 現在、病気にかかっていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 高血圧
2. 糖尿病
3. 高コレステロール
4. 腎臓病
5. その他()
6. 病気にかかっていない

問 30 食事療法をしていますか。

1. はい
2. いいえ

問 31 あなたは、要支援あるいは要介護の認定を受けていますか。

1. はい
2. いいえ

問 32 あなたの要支援・要介護度はどれですか。

1. 要支援 1
2. 要支援 2
3. 要介護 1
4. 要介護 2
5. 要介護 3
6. 要介護 4
7. 要介護 5
8. わからない

問 33 あなたの現在の暮らしは、経済的にゆとりがありますか。

1. とてもゆとりがある
2. まあまあゆとりがある
3. あまりゆとりがない
4. まったくゆとりがない

問 34 あなたは、現在の市に何歳のころから住んでいますか。

1. 子どものころから
2. 20~30歳代から
3. 40歳代から
4. 50歳代から
5. 60歳以上から
6. 答えたくない

問 35 あなたの最後の教育歴を教えてください。

1. 小学校
2. 中学校
3. 高等学校
4. 短期大学・専門学校
5. 大学・大学院
6. 答えたくない

問 36 あなたの年収(年金、仕送りなどすべて含む)はだいたいどれくらいですか。

1. 50万円未満
2. 50~100万円未満
3. 100~150万円未満
4. 150~200万円未満
5. 200~400万円未満
6. 400~600万円未満
7. 600万円以上
8. 答えたくない

問 37 あなたは、どなたと暮らしていますか。

1. 一人暮らし
2. 家族と
3. 二世帯同居など一部ひとり暮らし
4. その他(施設入所など)

問 38 あなたの性別、生年月日、年齢を教えてください。

性別 1. 男性 2. 女性

生年月日 大正・昭和()年()月()

年齢 ()歳

問 39 本アンケートは、高齢者の方々のための国の政策にいかされます。今後、追加調査がある場合、ご協力いただけますでしょうか。

1. 協力する
2. 協力しない

ご協力いただき、ありがとうございました。

